

(様式2)

令和 3 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1571600475		
法人名	特定非営利活動法人 七福神		
事業所名	グループホーム七福神【みどり棟】		
所在地	新潟県妙高市末広町1124番地		
自己評価作成日	令和3年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年12月9日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者一人ひとりと日々の時間を共に過ごす事で、その人らしい暮らしを考え、たくさん笑顔を見る事ができました。日々の活動や季節ごとに行われる活動にも、楽しく生き生きとした時間を送ることができました。

・今年度も感染症拡大防止のため、施設での活動や町内会行事等も中止や活動制限となってしまいました。施設内で楽しんで頂けるような行事等も計画しました。七福神農園での苗の植え付けや草取りなどの管理、野菜の収穫なども皆さんの楽しみの一つになり喜んで頂くことができました。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道18号線からほど近い妙高市の郊外に位置し、住宅も多く立ち並ぶ地域である。施設の周りには雑木林があるためキジバトなどの野生動物の姿も見られる。

建物は平屋建てで1ユニット毎に2棟離れて建立している。建物内は一直線の長い廊下の両側に居室とリビング、食堂などが配置され、とても広く感じられる。また、天窓からの十分な採光によりとても明るい室内となっている。敷地内にある広い駐車場では地域の子供たちがラジオ体操の集合場所として利用したり、コロナ禍以前は町内会のバーベキュー大会が開催され利用者、職員も参加するなどの交流が行われている。

平成17年に、福祉関係に従事していた有志によりNPO法人として立ち上げ、高い志のもと事業運営を継続してきた。地域や行政との繋がりには密接であり、直接相談を受けたり困難事例の受け入れを打診され入居に至ったケースも多くある。

開設から続く事業所理念は、当初を知る職員が大切に紡ぎ、現在につないできたものである。理事長、管理者もケアスタッフの1人として従事しており、常に利用者および職員の声に耳を傾けている。事業所開設から勤務する職員も多く、働きやすく居心地の良い職場環境づくりがされている。障がい者雇用されているスタッフも数名おり、障がい者の雇用機会の拡大に寄与している。利用者は「ゆったり楽しくじよんのびと、その人らしく穏やかに」生活を続けている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・利用者と職員と一緒に理念を唱和して、一日を過ごして頂いている。	開設時に作られた理念は普遍的なものとして今でも引き継がれている。毎朝ラジオ体操の後に利用者、職員全員で唱和するところから1日が始まっている。毎年度始めには理念に基づいた運営方針や職業倫理についての話が、理事長、管理者から職員に伝えられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者と職員ともに地域の一員として、活動に参加させて頂いている。	地域の町内会に加入し日常的な回覧板のやり取りのほか、行事、清掃活動、防災訓練など住民の一員として参加している。元々、地域住民との関係性が密であり、駐車場で行なわれる小学生のラジオ体操、バーベキュー大会などに一緒に参加し交流している。地域の方から無償で借りている畑では、多種多彩な野菜や花などを育てており、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年に引き続き地域の皆さまとの交流は自粛させてもらったので、交流等はできなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2カ月に1回運営推進会議を開催している。施設での取り組み状況を報告したり、感染症対策やヒヤリハット等についても意見を頂くことでサービスの向上に努めている。	顔を合わせて会議を行なうことに意義があるとの思いから、感染症対策を徹底した上で運営推進会議を実施している。地域の情報や防災に関すること、地域の「お助け隊」から事業所の屋根の雪降ろしをやって頂いたことも、運営推進会議での話からつながった事例である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当者とは連携を常に取り、実情や利用者の状況を伝え、助言や指導等を頂いている。	何かあれば訪庁し市の担当者とやり取りすることが頻繁にあり、顔の見える関係が築かれている。直接、市からの紹介で対応困難事例ケースや生活保護受給者の受け入れの打診があるなど協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体的拘束廃止等に向けた取り組みについて研修会を開催し、マニュアル等の周知をしている。	マニュアルが整備されており、それに基づいた研修が定期的に行なわれている。施設の出入り口は施錠せず利用者がいつでも自由に入出力出来るようにしている。センサーマット等の使用の際は必要性を検討した上でケアプランに位置付け、計画的に見直し出来るようにしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止研修会を開催し、マニュアル等で再確認するなど、周知している。	マニュアルが整備されており、それに基づいた研修が定期的に行なわれている。また、毎月の職員会議の中で実際の事例を題材に検討を行なっている。理事長や管理者も常に現場で一緒にいるような風通しの良い職場環境により、職員がストレスを溜め込まないよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・感染症拡大防止のため、成年後見制度について学ぶ機会がなかったため、様子を見て勉強会を行いたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約締結時に丁寧に内容を説明し、ご家族からも意見を頂いたりしている。退居時にはご家族と十分な話し合いと継続的な支援を受けられるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族等が来所された際に現在の状況をお伝したり、ご意見などないか伺ったりしている。	利用料の支払いをあえて事業所に持参してもらうようお願いしていることから、ほとんどの家族は月に1回以上は必ず事業所を訪問している。来訪時に居室担当職員が中心となり意見や要望の聴き取りが行われている。利用者の意見や要望は、日常の会話の中から聴き取りできるようにしている。	利用者、家族とのコミュニケーションは十分に取れているが、サービスを利用する側が意見や要望を言い難い立場であることを鑑みると、アプローチ方法としてはさらなる配慮が望まれる。アンケートや満足度調査などを実施することで、事業者側からの積極的な意見聴取の機会を作っていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議や主任会議等で各職員からの意見を検討するようにしている。また職員と面談をして意見を反映できるように務めている。	職員同士が何でも言い合える職場環境ができている。また、事業所独自の「相談員」を配置しており、仕事のこと以外にもプライベートな悩みなど何でも気軽に相談できる体制が整っている。理事長、管理者も常に現場の職員の近くにいるため、いつでも話を聞いてもらうことができる。職員会議でも活発な意見交換が行われ、業務改善が進められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・働きやすい環境づくりに努めている。特にパート職員に対しては、勤務意欲により希望する労働時間や勤務日数の確保に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修会等の資料は回覧をして、必要によりコピーを取ってもらうなど自己研鑽に努めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・感染症拡大防止のため他事業所との交流は行うことはできなかった。今後、交流ができるようになれば取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者様から言葉で聞き出すのは難しい方もおられるので、職員は本人に寄り添いながら話しかけをして、本人の思いを聞き取れるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の思いに耳を傾け、出来るだけ要望を聞かせてもらうなど、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者様やご家族の本位を優先し、その時々状況にあったサービスが提供できるのかを説明するなど支援に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自分の家で過ごしていた時と同じような気持ちで生活してもらい、お互いに支え合える関係築いている。		
19	(7-2)	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員と家族が協力し合って医療機関への受診や、家族しかできない精神的安定をお願いするなど、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設に来院して頂くために、毎月の利用料の支払いをあえて直接支払いとしている。帰宅願望が強く落ち着かない利用者には、家族との面会の機会を作ることで安心してもらえるようにしている。利用者が手芸や調理、畑仕事などの活動も継続できるよう、家族の協力を得ながら支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・感染症感染拡大予防のため、家族や親せき、知人の面会ができない状況が続いているが、電話での会話や窓越しでの面会、リモート面会にも取り組んでいる。	親戚や友人、知人などとの関係継続を積極的に進めてきたが、コロナ禍により面会が出来ず、手紙や電話、窓越し面会、オンライン面会など工夫しながら疎遠にならないよう考えている。利用者の馴染みの場所などにはドライブに出掛け近くまで立ち寄れるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・普段は体操やレクリエーション等に参加することで関わり合いができています。困っている方がいたら声を掛けたり、手を差し伸べるなど孤立しないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービスが終了しても、外出先でお会いした時は、お話ができるような関係性を築けるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの思いや希望を感じ、その人らしい生活ができるように努めている。困難な事が発生した場合には、カンファレンスを行ったり、家族などと相談しながら検討するように努めている。	入居申し込みの際に本人、家族から思いや意向の聴き取りを行い、把握に努めている。また、日常生活の中で聴き取った思いや意向は生活記録に記載し、毎月のカンファレンスなどを通し職員全体に周知できるよう努めている。	利用者、家族の思いや意向をより把握するために、現在使用しているアセスメントシートの見直しや他のアセスメントツールの活用も有効と考える。さらに一人ひとりの思いや意向に添ったケアマネジメントの実施を期待したい。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・今までの生活歴や暮らし方について、家族から情報を提供してもらいながら、職員全員でその情報を共有できるように努めている。	入居前には可能な限り自宅に訪問し、利用者の生活環境やこれまでの暮らしの把握に努めている。情報はフェイスシートに落とし込み集約するとともに、新たに聴き取った内容を随時追記し、定期的にシートを更新も行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日の生活の中で出来ること、出来ないや、残存機能について、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプランに沿ったケアを行い、状況に変化が見られるときは、カンファレンスで検討をして計画の作成にあたっている。常に本人に適した介護に繋がる、より良い計画支援に努めている。	3ヶ月に1回のモニタリングと6ヶ月毎のケアプランの更新を基本としている。ケアプランの援助内容の実施は毎日の生活記録の中で確認をしている。ケアプラン更新時のサービス担当者会議には家族に来訪してもらい、可能であれば利用者本人も同席してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子や気づいたこと等を記録している。家族からの連絡や病院受診などの記録も記録したり口頭で伝える等、情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者、家族の生活ニーズに対して職員間で共有し、柔軟な支援やサービスにつなげられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の方々や商店、行政、警察等とネットワークを築き、利用者が外出した時は皆さんから見守りをして頂いており、何かあれば連絡をしてもらえる体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の状況、状態を理解した上で対応や支援に努めている。家族の希望に合わせて、かかりつけ医に受診または往診をして頂いている。家族との連携を密に取り、支援している。	基本的には、それぞれのかかりつけ医へ、家族により受診してもらっている。事業所の協力病院が24時間対応でバックアップしてくれる体制となっているため、必要があればかかりつけ医の変更もできる。医療機関へは事業所から書面で情報提供したり、医師からFAXなどで診察結果を提供してもらうなど、連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・状態変化時は看護師と連携を取り、指示をもらい必要時には家族や主治医に連絡を取るなどの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には必要な情報を提供し、退院時には病院側と家族を含めたカンファレンスを行ない、状況報告を受ける等意見交換を行って連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時に事業所の方針を説明し、家族と相談しながら支援する様に取り組んでいる。又、本年度より、けいなん総合病院と重度化等を含んだ医療連携協力委託契約を締結している。	事業所としては、希望があり諸々の体制が整っていれば看取りも行なう方針で看取りの同意書も準備している。状態低下に伴って歩行や入浴が困難となってきた段階で、住み替えも含めた中で情報提供しながら話し合いを行なっている。職員の不安を軽減するよう、職員会議などを通し事業所の方針を共有している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・感染症拡大予防のため救命救急法の研修は実施できていない。急変時や転倒時の対応については職員会議内にて研修を行っている。	協力病院と24時間での医療連携体制をとっているため、急変や事故発生時には迷わずに救急対応が行われている。事故等に対しては、ヒヤリハット事例を正確に取り上げ、「リスクマネジメント委員会」により毎月の検証を行ない事故防止に努めている。夜勤者とは別に準夜勤の職員を配置することで安心感につながっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・2か月に1回は火災や地震などを想定した訓練を行っている。また町内の防災訓練にも参加させってもらうなど協力関係を築いている。	2ヶ月に1回の防災訓練は、火災、地震などを想定しなおざりにならないよう工夫しながら実施している。コロナ禍以前は地域の防災訓練にも利用者と共に参加していた。地域の広域防災組織に加入し、事業所が災害時の一次集合場所となっている。停電を想定した中で発電機を購入し有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、その人にあった言葉かけで対応している。	利用者を傷つけないような言葉掛けに留意しながら、方言や慣れ親しんだ言葉遣いで接している。利用者同士のトラブルにつながるため、個々のプライベートにはあまり深く関わらないように管理者から職員に伝えられている。接遇や個人情報保護などの研修を行ない学びを深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の思いや希望を決定できるような雰囲気環境を整え、自分で選択しやすい言葉かけにも努めている。自己決定することが難しい場合でも話を聞く様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日によって一人ひとりペースが違うので、無理強いすることのないように、なるべく希望に沿った支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしさを大切にしている。それぞれ好みがあり、どうしてもいつも同じ服になりがちになるので、同じ衣類が続かないよう配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付けなど一人ひとりの能力に合わせ利用者と一緒に行うように努めている。	「メニュー委員会」により1週間分の献立が作られるため、その都度利用者からの希望を取り入れている。フードバンクから頂いた食材も活用し、献立に捉われず臨機応変な食事作りが行われている。利用者は下ごしらえから盛り付け、後片付けなどを一緒に行なっている。畑で作った沢山の野菜を盛り込み、栄養のある美味しい食事が作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・その人に合わせた食事形態で、適切な量やバランス、水分などを摂って頂ける様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に口腔ケアを行い、一日に1回でも職員がその方に合ったケアをするように努めている。義歯洗浄は預かって洗浄をすることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・その人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行なうことで失敗する回数を減らしたりパットの使用量を減らすなど、自立に向けた支援も努力している。	排泄が自立している方が多く、それぞれの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行なっている。排便コントロールが難しい方は、時間や間隔を細かく調整しながらスムーズな排泄につながるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘の習慣を知り、牛乳やヨーグルトなどを摂取してもらったり、運動をして体を動かしてもらおうことで自然排便ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴したい時間の把握や個人の希望をなるべく取り入れて入浴して頂ける様に努めている。また、その日の体調や状況に合わせて入浴してもらう様に支援している。	1日おきの入浴を基本とし、希望があれば個々に対応している。入浴が楽しくなるように季節に応じた菖蒲湯や柚子湯を提供し、気持ち良くゆったりとした時間を過ごしてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活習慣に合わせて過ごして頂いている。会話のトーンや物音にも気をつけて静かな環境で休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方されている薬の内容について理解するよう心掛けている。常に状態を観察し、変化がある時には主治医や病院へ連絡するなど連携して服薬の支援に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活歴を参考に、掃除や食事の手伝い、花の水やりなどの役割を持ってもらうことで本人の張り合いになるよう支援している。また感謝やねぎらいの言葉をかけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍ではあるが、天候をみながら一人ひとりの健康状態に合わせて、散歩や外気浴を行なっている。七福神農園での野菜の植え付けから収穫までの作業も、楽しみの一つになっている。	コロナ禍により通常の外出は出来なくなったが、花見や紅葉などドライブに出かけ車中から眺められるような工夫を行なっている。事業所周りの散歩は天候を見ながらいつでも出かけている。地域の方から借りた農地で畑を耕し、数十種類の野菜や花などの世話仕事や収穫を行なうことで、外出する楽しみとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・当施設では、お金は基本的に所持して頂かないようにしている。欲しいものや必要なものがある場合は家族に連絡をして持参して頂いている。また家族に了解を得て、購入させてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人からの希望があれば、電話をしてもらっている。携帯電話を持ち込まれている方もいるので自由に使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に合わせた掲示物や花等を飾ったり、行事の写真を掲示するなど、居心地の良い空間づくりに努めている。	広々とした室内は天窓からの十分な採光によりとても明るい。季節を感じられるようにと季節ごとの作り物やオブジェが飾られている。外出の際の沢山の写真を壁に掲示してあり、楽しかった思い出を回想できる。所々にソファやテーブルが設置しており、各人が自由にくつろげる環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールのソファ等で一人の時間を過ごせるように努めている。また、気の合う利用者同士で会話なども楽しめる環境づくりに務めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具を置いたり、家族の写真を飾ったりするなど、居心地の良い空間づくりができるよう配慮に努めている。	馴染みの家具や飾り物を置き、それぞれの居心地の良い居室空間が作られている。家族の協力を得ながら居室担当が中心となり、部屋作りや衣替えなど行なっている。掃除も行き届いており清潔感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりや足元灯で安心して一人でも歩けるようにしたり、トイレには目印を付けるなど自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				